

4 公園のコンセプトについて

○公園計画の立案に際する基本条件を以下の通り設定します。

○広域公園として整備

周辺には多くの総合公園・運動公園が整備されている一方、緑の七大拠点には各々広域公園が整備されており、交通基盤が比較的良好であることから広域公園として位置付けることが適当である。また、周辺公園においては、既に多くの運動施設が整備されており、それらとの役割分担を考慮した施設内容とすることが適当である。

○緑の保全・創出

緑の七大拠点の中に位置していること、開港150周年の森として位置付けられていること、また、地元から緑の保全の要望が出されていることを踏まえ、既存の緑を保全し、更に植樹により失われた緑の回復を図る。

○地下タンクの処理

安全性確保のため、原則として埋め戻し処理を行う。このためには、相応の費用を要すると予測されるが、地下構造物の詳細が不明であるため、具体的処理方法等について更なる検討が必要である。また、処理には長期間を要することから、上部利用計画には柔軟性が必要である。

○段階的供用

地元の要望や長年に渡る米軍使用の経緯を踏まえ、整備が完了した部分から順次供用を図ることが必要である。

○交通対策

周辺住宅地への影響をできる限り少なくするため、駐車場は住宅と近接していない南東側に設置することが好ましい。また、幹線道路からの円滑なアクセスを検討していく必要がある。

○都市農業との連携

都市農業振興の観点から、隣接する柴シーサイドファームとの連携を視野に入れる。

4 公園のコンセプトについて

○米軍施設跡地利用については、「横浜から始める首都圏の環境再生」を大テーマとしています。
 ○公園整備において、環境をキーワードとして展開が可能な機能は以下の通りです。
 ○この中から、周辺の公園立地状況や社会情勢を考慮し、緑の保全・創出をはじめとした地球環境対策をメインコンセプトとします。

	分類	公園において展開可能な機能	具体的な導入機能例
環境	地球環境	地球環境(地球温暖化やヒートアイランド対策に資する機能)	<ul style="list-style-type: none"> ○緑の保全、創出 ○地球環境対策に関する情報発信、体験、学習 ○自然エネルギー、未利用エネルギー活用
	生活(都市)環境	娯楽(身近にレジャーを楽しむことができる機能)	<ul style="list-style-type: none"> ○大規模運動施設 ○屋外レジャー施設(バーベキュー場など) ○広場
		休息(人々が憩い、くつろぐ場としての機能)	<ul style="list-style-type: none"> ○緑の保全、創出 ○花木、花壇、噴水、芸術品 ○広場
		景観(緑に恵まれた都市空間を創造する機能)	<ul style="list-style-type: none"> ○緑の保全、創出 ○地形の保全 ○モニュメント
		防災(非常時の拠点機能)	<ul style="list-style-type: none"> ○広場(オープンスペース)の確保 ○防災機材の整備
	学習環境	教育・啓蒙(自然体験や農体験などの教育機能)	<ul style="list-style-type: none"> ○動物園、植物園、博物館 ○キャンプ場、青少年の家 ○里地里山(水田、水車、畑、古民家) ○自然保全 ○史跡保護、歴史伝承

4 公園のコンセプトについて

〇「低炭素社会の形成に向けて人々が行動変容を起こすきっかけの場づくり」を目指して、以下のようなコンセプトで公園整備を進めます。

公園計画の方向性

①金沢本来の自然を保全・再生した、自然散策空間

現状の緑を保全しつつ、金沢本来の植生を再生し、自然散策空間として活用する。

②周辺の緑との連携を生み出す開港150周年の森

周辺の公園や緑地等と連携し緑の七大拠点のひとつである「小柴・富岡」地区内の、緑の軸を強化するとともに、公園内の緑の連続性を確保するため、整備の進捗に応じながら植樹等により失われた緑を回復し、公園全体として「開港150周年の森」を造り上げる。

③温暖化に配慮した生活の体験・学習の場

環境配慮意識の高いライフスタイルの体験や学習など、人々の行動変容を図る場を形成する。

④環境共生型の生活体験空間

我が国の自然共生の智慧と伝統を再興し、現代人が体験・継承できるような施設・空間の導入を図る。

⑤自然エネルギーの積極的活用と防災機能の確保

公園内で消費するエネルギーを確保するとともに、汚水処理など園内活動によって排出されるCO₂をオフセットするため、太陽光発電等の自然エネルギーを積極的に導入する。また、それを活用した新たな防災空間の形成を目指す。

⑥リサイクルパーク

園内施設に積極的にリサイクル製品を導入する。

その他計画に際して必要な視点

地域や地権者の意見の尊重

長年に渡る米軍使用の経緯を踏まえ、金沢区米軍施設建設・返還跡地利用対策協議会など、地域や地権者の意見を尊重することが重要である。

市民参加による公園づくり及び記念植樹

市民参加を基本とした公園づくりを行い、市民の公園であること意識醸成を図る。また、公園（開港150周年の森）整備のスタートとして、市民参加による記念植樹の実施を目指す。

市民参加による既存樹林地の保全

既存の樹林地については、市民参加による適正管理を行う。整備段階から積極的に市民参加を仰ぎ、その力を維持・管理段階に繋げていく。

次世代へ繋げるストック機能の確保

市域に53haもの未利用地が残されていること自体が市民の財産であり、将来への余地を残しながら整備を進め、時代の要請に柔軟に対応する。

都市農業との連携

隣接する柴シーサイドファーム等との連携方策を検討する。